

足湯でゆっくりできるまち

まちづくりに足湯を活用。眺めの良い場所や交通拠点に足湯を整備し、点在する足湯を自転車道・歩道でつないでネットワーク化。足湯が地域に住む人や訪れた人のコミュニケーション拠点に。

< 足湯のあるまちづくり構想 >

九州は温泉が多い地域です。「掘れば、どこでも温泉が湧く」なんてことも聞いたことがあります。テレビや雑誌でも温泉特集が多く、温泉は人気の高い身近な憩いの場となっているようです。でも、温泉に入るには服を脱いだり、着替えたりと結構時間がかかり面倒な時もあります。もっと、気軽に温泉を楽しむことができないでしょうか。

そんな時、街のいろんな所に足湯があればとっても便利！ 靴下を脱いでお湯の中に足をつければ、短時間で心も体もリラックスできます。

足湯を眺めの良い場所や鉄道駅・バスターミナルに

足湯のあるまちづくりは、適度な温度の温泉が湧き出る地域であれば、どこでも可能です。できれば、眺めの良い絶景がある地域がベスト！足湯脇のベンチに座って、九州の海や湖、山々を眺めながらゆっくり温泉に足を浸すことができたらいいですね。

眺めの良い場所のほか、鉄道駅やバスターミナル等にも足湯を設けて、電車やバスを待っている人が待ち時間の間に足湯に浸かれるようにします。たとえ運行本数の少ない路線でも足湯で時間がつぶせる上に宣伝効果があり、利用客の増加も期待できます。そのほか、公共施設や商業施設近くのまちかどにも整備します。

足湯をつなぐ道路の整備

街の道路幅員はあまり広くとらずに、また、自動車がそれ程スピードを出せないようにハンプを設ける等の工夫をします。その代わりに自転車専用道路のネットワークを広げるほか、安全に安心して歩けるバリアフリー化された歩道を整備して、街中に点在している足湯をつなぎます。これでジョギング中やウォーキング中、サイ



足湯でホッとひとやすみ

クリング中にも足湯に浸かることができます。

また、この歩道にはみかんやびわ、柿、レモン、サクランボなど全て実がなり食べることができる街路樹を植えます。もちろん、住民や訪れた観光客は自由にそれをとって食べることができるようにします。そして街のあちこちに「地域の庭」的な四季の花壇を造り、住民が主体となったグリーンキーパー（庭師チーム）を編成して、植栽や花壇の維持・管理にあたります。

足湯がコミュニケーション拠点に

眺めの良い場所にある足湯には「足湯茶屋」を設け、串焼き、だんご等の軽食や各種飲料、特産品の販売を行います。この「足湯茶屋」は、地元のシルバー人材センターの方を登用し、地域の話をしながら物品販売を行うようにします。

足湯は、幅広い年代の人たちが集まる交流・コミュニケーション拠点になることが考えられます。足湯に浸かりながら「地域のことを想い、語り、疲れを癒す」ことで、そこに集う人の心も暖めることにつながっていくことでしょう。